

## ②8 高校生が小学校で防災講座の先生に ～防災インフルエンサー育成に向けた取り組み～

受賞機関 一般社団法人中部地域づくり協会

**キーワード** 防災の伝え手、防災インフルエンサー、避難インフルエンサー、防災教育、防災授業、高校生の育成

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

中部地域づくり協会地域づくり技術研究所と岐阜県立岐阜総合学園高等学校が連携し、防災インフルエンサー育成の一環として、小学校で防災授業を担当できるよう高校生を育成。高校生が小学生向けに防災授業を行い、高校生自身の防災知識の定着と小学生の防災意識向上を図ることで、地域を担う若者に防災意識を身につけさせる工夫を凝らした効果的な取組が評価された。

### 1. はじめに

近年、全国各地で水害が頻発する中、避難情報が発令されても「自分は大丈夫」と考え、正常性バイアス（思い込み）により、避難を決断できずに犠牲になるケースが多く見られる。一方で、家族や近所の人など、周囲の声掛けで避難につながり、助かった事例もあり、水害時の避難のきっかけを調査したデータでは、「周囲の人の呼びかけによる」との回答が3割を超えている。中部地方では、近年、広域的な大規模水害が発生していないため、水害から大切な命を守るためには、地域を担う若者が防災の基礎知識を身に付け、「守られる人から守る人（地域の守り手）」になり、地域防災力の向上を図る必要がある。

### 2. 事業の概要

一般社団法人中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所と岐阜県立岐阜総合学園高等学校が連携し、生徒が防災の知識を身に付け、「過去の災害を伝えることができる」、「災害時に声掛けができる」、防災（避難）インフルエンサーとなれるよう、環境テクノロジー系列専攻の生徒27名を当研究所職員が先生となって育成した。

この地域は過去から水害に悩まされてきたことから、水害を題材に育成プログラムを作成し、目的、ねらい、学習方針、授業時間などを高校と調整した。水害に関する事例、教訓や備えなどを学び、防災（避難）インフルエンサーとして小学生に伝え（教え）られるスキルを身に付け、小学校での防災授業の実践を具体的な目標とした。授業は実習の単元で15回、各2時限ずつ行った。また、より自分事として捉えられるよう、講義だけでなく、VRによる浸水体験や現地でも過去の水害の浸水状況を確認するなど、体験を通して水害を実感した。

高校生が防災授業を行う学校は、親近感のある、同じ学区内の小学校を選定し、5年生137名を対象に行った。当日は、クイズを出題するなど、小学生にも伝わるよう

生徒が各自工夫を凝らし、小学生からの質問にも真摯に対応する姿が印象的であった。



高校生の防災（避難）インフルエンサー育成に向けた授業



高校生が先生となった小学校における防災授業

### 3. 事業の成果

高校生が、小学生に教えるためのスキルを短期間で習得することは難しいが、繰り返して学ぶことで理解を深めていった。最終目標を授業で小学生に教えることとしたことは、学習意欲の向上につながり、スキル習得にも効果的であった。小学生が年齢の近い高校生から教えてもらうことで、自分たちも将来そのような存在になりたいと感じ、大人が教える場合と比べ、高校生を手本としている様子が見受けられた。また、小学生が、防災への興味と近い将来、地域づくりに携わることを目指すことにもつながり、次世代の人材育成にも寄与する。さらに、授業を受けた小学生が家に帰って親に伝えることで、防災の重要性の広がりが期待できる。

### 4. おわりに

育成には継続した教育が必要であり、令和7年度も同高校とこの取組を継続している。今後も他校への拡大を視野に入れ、若者の防災（避難）インフルエンサーを育成する取組を推進する予定である。